

# らじみサラダボール子育て情報



「成長は大人の模倣から」

令和3年5月26日号

板橋富士見幼稚園



## 小さいながらも大人かな

親は、80歳になっても、50歳のわが息子に、苦言を呈している姿をよく見かけます。「大丈夫、しっかりしなさいよ」「しっかり先を見て、自動車に気をつけるのよ」「手、洗ったの」「遅くなるわよ、大丈夫」などなど、本当は、息子が親に気遣わなくてはならない言葉かもしれません。いつまでも、親子の距離間は幼児期から同じなんだなあと、つくづく感じます。

幼稚園も二学期が始まり、久々にみんな元気に登園してきました。日焼けした子ども達と再会し、一か月ぶりに逞しさを感じました。始業の挨拶の後の外遊びで、ある姿に接しました。3歳の男の子が、穴掘り遊びの穴に近づき、緩やかな傾斜に前のめりに両手をつき、お尻を突き出しからだを支え



きりかわしました。瞬発力やバランス感覚が、しっかり育ってきていると感心して見ていました。ところが次の瞬間、体を起こし、自分の手の平についた泥をじっと見つめ周囲を見渡し、ある物をめがけて突然走り出しました。

なんと、筐が密集して植えてあるプランターに近づき、迷うことなく、筐の葉を束ね、両手をこすりつけ手の平の泥を落としたのです。

3歳児なのに、なぜこんなこと知っているのだろうか と思いました。大人がこうした行為を子どもに見せ体験させなければ、決して学べないスキルです。きっと夏休みに帰省し、田舎でおじいちゃんやおばあちゃんのその姿を見て、真似したのではと推測しました。それにしても、ずいぶん高度な行為です。大人でもなかなか知りえぬ洗浄法を、3歳の子どもが身に付けているとは、小さいながらも大人なのだ、と関心してしまいました。

私の幼き頃、田舎で水のない場所で手が汚れたときは、よく筐の葉で手を洗ったものでした。しかし裏を返すと常に、大人のする行為や言葉を真似ながら、大人になっていくのですね。良き手本は、真似てほしいものですが、悪い行為は、真似させたくはないですね。